



CONTENTS

● ヤマトグループTOPICS

● トップインタビュー

「決済サービスがつくる3つの新しい仕組み」

ヤマトフィナンシャル株式会社 代表取締役社長 栗栖 利蔵

ヤマトクレジットファイナンス株式会社 代表取締役社長 樫本 敦司

● ヤマト福祉財団「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」活動報告

● 新着情報



ヤマトグループTOPICS

ヤマトグループ各社、各地域、環境への取り組み、今後の予定などを「一行ニュース」でお知らせします。

ヤマト運輸

- コンビニで24時間受取ができる。ネット通販商品の受取場所選択サービスを開始(9月24日～)
- TOKIOとセールスドライバーが共演。京都・嵐電を利用した環境配慮の集配がテーマの新CM公開(9月11日～)
- 海外の空港まで手荷物を持たずに行ける「手ぶらサービス」を開始(9月1日～)
- 震災を風化させない。日本災害看護学会の年次大会でヤマトの復興支援活動がパネル展示(愛知県・7月28、29日)
- 地域で守る安心・安全。滋賀県甲賀市と静岡県川根本町で「高齢者の見守り」に協力

YAMATO TRANSPORT EUROPE B.V.(欧州ヤマト運輸)

- ロンドンオリンピック出場の日本人選手や応援サポーターを国際宅急便で支援

ヤマトホームコンビニエンス

- 被災地の離島や仮設住宅へ。引越しの相談から生活用品の物販まで行う移動型販売を開始(宮城県・2011年4月～)
- 師範代の腕前を持つムコ多糖症の社員が復興支援。書道チャリティーイベントを開催(岩手県・7月)

ヤマトシステム開発

- 1万人が来場する豊洲フェスタで近隣住民と交流。子供達とペーパークラフトで「街」を創作(東京都・10月27日、28日)
- 長崎県(一部離島含む)でネットスーパーの電話利用が可能に。PC操作が苦手な人のお買い物を支援(11月予定)

ヤマトフィナンシャル

- 善光寺での結納品の供養サービス。品物の集荷から代金決済までお客様の負担を軽減します(長野県・9月～)
- 社員を広島商業高校へ派遣。ネット通販ビジネスを体験できる授業が2013年度より正式商業科目化(広島県)



トップインタビュー

ヤマトフィナンシャル株式会社 代表取締役社長 栗栖 利蔵
ヤマトクレジットファイナンス株式会社 代表取締役社長 榎本 敦司

決済サービスがつくる3つの新しい仕組み

栗栖 私たちの決済サービスには、無限の可能性を感じています。例えば、学生服・教材のネット販売や、マラソン大会への申請・参加費の決済サービスの提供。事前に支払いを済ませておけば、当日並ばなくても済むようなサービスです。



ヤマトフィナンシャル株式会社
代表取締役社長 栗栖 利蔵

私が4月に就任する前から、代金引換や電子マネー等の決済サービス(FT)に、ヤマトグループの物流機能(LT)やITを組み合わせて世にある色々な困りごとを解決してきました。最近では、通販以外の新たなニーズにも対応する解決策が現場からのアイデアで次々と生まれています。

モノが動けば必ずお金が動き、決済行為が発生します。IT・LT・FTを組み合わせれば、ヤマトグループが注力する「グローバル化」「生活支援」「新事業の創出」を推し進めることができる。そのために、私たちは3つの新しい仕組みをつくり始めました。

中小企業のロケーションフリーを実現する仕組み

栗栖 国内メーカーの海外進出の波が押し寄せています。車や家電、携帯業界などを中心に、海外で部材や部品の調達を加速させたことで、国内では産業の空洞化が問題になっています。一方、国内にいる中小サプライヤーは、海外に進出するノウハウや資金力に課題を抱えています。私たちは企業の海外進出・調達を、決済を通じて支援しています。

具体的には、香港のメーカーから部品を注文された地方都市の町工場。部品をメーカーに提供したいものの、これまでに海外との取引の経験がありません。1つ1つ輸送するにも莫大なコストがかかります。そこで、メーカーと町工場のかけ橋となり、メーカーにかわり町工場から部品を購入し、納品します。配送機能に加え、取引を管理するITシステムや決済サービス、通関等の輸出入に関わる手続きも、ヤマトグループが担います。

榎本 実際、海外で現地調達した部材をつかい、部品をつくっても、日本の町工場で作るような良い部品をつくる事はできません。なぜなら、国内で調達できる鉄と海外で調達できる鉄の材質には微妙な違いがあり、同じ材質というわけにはいきません。

国内同様の生産設備で対応できないケースや、部材の配合や磨き方など匠の技も必要になるからです。そういった企業が、私たちのIT・LT・FTや「羽田クロノゲート」「沖縄国際物流ハブ」「山陰流通トリニティーセンター」を利用して、アジアを中心に世界中のどんな企業とも取引ができる。海外進出が果たせる。そんなお手伝いをしていきたいと思っています。

栗栖 もちろん、海外進出のお手伝いだけにとどまりません。同様のスキームで、海外からの部品調達もできます。少量多頻度の購買機能。ITを活用した輸出入の取引機能。そして決済サービス機能。フレキシブルな貿易商社のような機能を提供して支援していきたい。そう考えています。



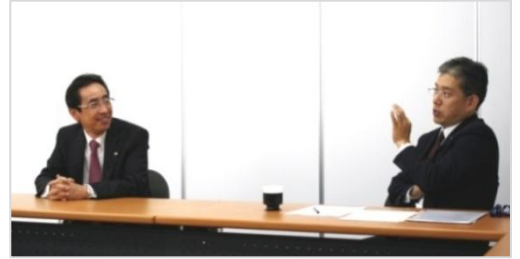
ヤマトクレジットファイナンス株式会社
代表取締役社長 榎本 敦司



販路拡大を支援する仕組み

榎本 私たちは、ヤマトグループの金融会社として、グループ機能を駆使した物流金融ソリューションを展開しています。社名を変更した8月から、約6万人のセールスドライバー、つまり全国津々浦々の営業部隊と協働してBtoB決済サービスの営業強化を始めました。BtoBの掛取引ができる「クロネコあんしん決済サービス」。モノを買う企業の支払いを当社が保証することで、企業の売掛金未回収のリスクをなくすものです。

10月から、都内ではフグの調理資格が規制緩和されます。有毒部位の除去加工をした身欠きフグであれば、フグの調理資格がない店でも、お客様に新鮮なフグを提供することができるようになります。しかし、九州のフグ生産者は直接卸す販路がない。もちろん卸す店について詳しくありません。グループ内では宅急便と「クロネコあんしん決済サービス」を使って販路拡大のお手伝いをするのはできないか。そんなアイデアも現場から生まれています。



栗栖 これは、直接モノを配達しているドライバーだからこそそのアイデアです。ドライバーは熟練の技術者のように、サービスの可能性を次々と追求しています。6万人の精鋭営業部隊がいる。その可能性ははかりしれません。

アイデアを具現化する仕組み

榎本 売掛決済サービスと物流サービスの相乗効果も芽を吹き始めています。震災後に広島県産の牡蠣を、これまで東北から購入していた関東圏に流通させる話も現場から生まれたアイデアに売掛決済サービスを組み合わせ始めたものです。社名を変更しヤマトの名前がついた事で、社員の士気も高まっています。これを機に、業界や業種を問わず可能性がある限りどんどんチャレンジしていきたい。

栗栖 最近では「センターソリューション」という取り組みが成果をあげています。お客様の悩みを一番身近で感じることができるセールスドライバーが、IT・LT・FT・を組み合わせで最善の解決策を提案する。そのなかで、社員には「グループ内で頼りにされる営業担当」になろうと話しています。モノが動くと最後に決済が発生します。つまり必ずグループ内のいろんな案件に関わることができる。グループ内の情報を収集し、発信していく。何かあればヤマトフィナンシャル、ヤマトクレジットファイナンスの営業担当に話ができる。研鑽を積むことでサービスをプラットフォーム化し、収益をあげることができる。これこそが、アセット(資産)を持たない私たちが大きく成長していける最大の強みだと考えています。

【ご報告】「宅急便ひとつに、希望をひとつ入れて。」活動

ヤマトグループの「宅急便1個につき10円の寄付」、ヤマト福祉財団の「東日本大震災生活・産業基盤復興再生募金」の募金と助成の応募は終了しましたが、被災地の復興・再生は着実に進んでいます。昨年8月に第1次の助成先を決定以降、第5次にわたるまでの助成先の近況をご報告します。

「宅急便ひとつに、希望をひとつ入れて。」サイト

URL: http://www.yamato-hd.co.jp/information/info/contribution_1104.html



道の駅「よつくら港」の交流館が完成！（第1次助成）

8月11日、福島県いわき市にある道の駅「よつくら港」の交流館が完成し、リニューアルオープンしました。震災前、よつくら港交流館は、農・水産物の生産者190人による直売所、地ものを使った料理を提供するレストランなどを有し、年間60万人が利用する施設でした。新施設は、延面積約930㎡。1階に魚介類、地元野菜、加工品などの直売所、2階には、四倉地区のそば店と海鮮丼店、川内の釜飯店、太平洋を望むカフェなどが出店しています。当日は、開店前から長蛇の列をつくり、オープンと同時に賑わいを見せていました。



新着情報

【ヤマトオートワークス】

岡山県内初！24時間365日対応の「お客様の稼働をとめない」自動車整備工場をオープン

9月16日(日)に、トラック・バスの整備工場「スーパーワークス岡山工場」を岡山市にオープンしました。24時間・365日対応のため、車が稼働しない土日や夜間に整備・点検が可能になります。

また、一度もバックをせずに作業が終えられる「一筆書き」の作業動線など効率を追求した仕組みにより、夜間に受けた整備車両でも翌日納車を実現します。



ヤマトオートワークス株式会社 代表取締役社長 佐々木 敬史郎

岡山県は、中国・四国地方の高速道路網の玄関口で、中国地方の中でも特に運送事業者が集中しているエリアです。岡山県南部から広島県福山市にまたがる運送事業者約900社のトラックの稼働率・回転率向上、整備・点検コストの削減に貢献していきたい。



【YAMATO INTERNATIONAL LOGISTICS CO., LTD.(雅瑪多国際物流)】

中国内陸部に進出する企業の物流を支援。中国内陸部の交通の要衝地・湖北省武漢市に拠点設立

中国において国際物流や海外引越しサービスを展開する雅瑪多国際物流は、8月30日、湖北省武漢市に武漢分公司を設立しました。上海(東)、成都(西)、広州(南)、北京(北)の主要都市を結ぶ交通網が交差する武漢市は、近年の沿岸部の人件費の高騰を背景に、優秀な人材を求めて自動車産業や電子産業の進出が進み、産業集積地として商流貨物や引越貨物の動きが活発化しています。今回設立した武漢分公司は、中国国内における12番目の拠点として内陸部に進出する企業の物流を支援します。

CSR

【ヤマトシステム開発】 エンジニアの仕事体験しよう！ 中学生の職場体験プログラムを開催

ヤマトシステム開発は東京都江東区がおこなっている中学生職場体験プログラムを8月28日から3日間行いました。ホームページ制作を通してシステムエンジニアの仕事の流れを体感し、「働くこと」の楽しさ、やりがいを中学生に感じてもらうことを目的に、江東区立有明中学校の生徒6名が参加しました。

中学生らは、倉庫業務を行うロジクスセンターの見学や、社員と一緒に昼食をとるなど、普段の学校生活では味わえない体験に笑顔を作っていました。



【湖南工業】 障がい者の雇用率3%の雇用優良事業所として 障害者雇用促進大会にて賞を受賞

ヤマトグループで製造物流サポート事業を展開する湖南工業(本社:静岡県浜松市)は、9月14日、障がい者の積極的な雇用や就業に努める企業を対象にした静岡県障害者雇用促進大会において独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 理事長努力賞を受賞しました。

湖南工業では「障がいのある方の自立支援」を掲げ、健常者と同じ職場環境で簡易的な梱包作業や組立作業に取り組んでいます。また、安全を第一に所属チーム全員がフォローする体制や働きやすい環境を作ったことにより、障がい者の雇用率は、法定雇用率1.8%を上回る3%に上昇。今回の受賞につながりました。